



チカラン日本人学校 ○自分で考える子○助け合う子○じょうぶな子

チカラン学校だより

令和6年1月5日

第12号



努力が実を結ぶ年 ～今年は「辰年」～

新年 あけましておめでとうございます。2024年(令和6年)がスタートしました。新年を迎える少し前からあちこちで花火が上がり、にぎやかに新しい年が始まりました。今年1年が、みなさんにとってよい年となりますように……。

あっという間に冬休みが終わり、いよいよ今日から3学期が始まります。校舎にまた、元気な子どもたちの声が響き渡り、学校が始まったことが実感されます。新年最初のあいさつ、お家でも学校でもしっかりできましたか。3学期も元気なあいさつで、1日を気持ちよくスタートさせましょう。

今年度も残り3か月となりました。6年生は中学部へ向けての準備が始まります。中学部3年生は、義務教育最後の学期を迎え、CJSでの生活もあとわずかとなります。1日1日を大切に、それぞれの学年の総まとめをしていきましょう。

ところで、今年の干支は、「甲辰(きのえたつ)」。十二支と十干を合わせて、60年で一回りとなります。「甲辰」の「甲」は、十干の1番目、優勢であることを表すほかに、まっすぐに堂々と立つ大木を表していると言われています。また、「辰」は、十二支の中で唯一の架空の生き物、龍(竜)を意味します。水や海の神として祀られてきた龍は、「龍が現れるとめでたいことが起こる」と伝えられてきました。この2つが組み合わさった「甲辰」は、「成功という芽が成長していき、姿を整えていく」ことを表すといわれ、過去の年にも、オリンピックで金メダルを取ったり、ノーベル賞を受賞したりと、努力した成果が実を結ぶような出来事が多く起こっているそうです。失敗を恐れず、自分の力をさらに伸ばせるようないろいろなことに挑戦し、努力したことがたくさん実を結ぶ年にしたいですね。

保護者、地域のみなさま、今年も職員一同、子どもたちのよさを引き出し、伸ばしていけるよう、全力で取り組んでまいります。引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

(校長:辻口 幸恵)

もらうだけでなく……

12月の全校集会で、「サンタクロースっているんですか」という本を紹介しました。日本ではクリスマスが終わるとすぐにお正月に気持ちに移り変わっていきませんが、クリスマスが終わった後のサンタクロースは、何をしているのでしょうか。フィンランドの絵本作家マウリ・クナナスサンによれば、1月6日まで冬休みに入るとか。ロシアとの国境に近い北部の山に戻り、ふもとの村で小人たちと一緒に暮らしているといえます。休暇の間は、劇を見たり、トナカイ牧場を訪れたり、街に出かけたり……。フィンランドでは、空っぽの袋できたサンタへ、逆に子どもたちが絵本や人形を渡すといったお話もあるようです。サンタからもらう喜びだけでなく、与える喜びも豊かな贈り物になるということがわかります。

【2021.12.26 朝日新聞天声人語 参照】

幸せを願う おせち料理

お正月に「おせち料理」を食べた人も多いのではないのでしょうか。「おせち料理」には、それぞれ意味があります。

「伊達巻き」→昔の書物の巻物に似て、物知りになれる。

「黒豆」→まめ(勤勉)に働けるように。

「昆布巻き」→みんなが喜ぶよいことがある。

「田作り」→豊作をお祈りする。

地方や国によって、お正月に食べる料理は違います。お雑煮も、角餅だったり、丸餅だったり、醤油味だったり、味噌味だったり、味や具材が地域や家庭によって違ってきます。いろいろと違うところはあっても、どれもみな、みんな幸せを願う気持ちが込められています。

